

教育セミナー「霰粒腫」

演題名 霰粒腫 切らない治療

演者 福岡 詩麻

所属 大宮はまだ眼科

霰粒腫の治療としては、「切らない治療」と「手術治療」がある。霰粒腫を大きく切除することは、隣接する正常なマイボーム腺も切除することになり、将来にわたって、涙液油層へのダメージを与えることになる。霰粒腫術後眼では正常眼と比べ、涙液層破壊時間(BUT)が短縮する。霰粒腫を切らずにマイボーム腺を温存する治療として、温罨法、リッドハイジーン、ステロイド局所注射がある。

温罨法、リッドハイジーンは、患者自身が行うマイボーム腺のケア(マイボケア)であり、ていねいな指導が重要となる。根気強く続けることで、痛くなく霰粒腫を治療することができる。

ステロイド注射は、手術と同等の治療率であるとの報告がある上に、手術よりも患者満足度が高く、繰り返し行うことができる利点がある。ステロイド注射の合併症としては、皮膚の脱色素、沈着などがあるが、経結膜的に注射することで予防できると言われている。

霰粒腫の一番のリスクファクターは、眼瞼炎である。また、最近では Demodex との関係が話題となっている。Demodex 陽性の再発霰粒腫の再発予防に、リッドハイジーンが有効であるとの報告がある。

本講演では、実際の症例を提示しながら、霰粒腫の古くて新しい「切らない治療」について解説する。

(514/600 文字)